

目録学の構築と古典学の再生 - 天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明 -

研究代表者 田島 公 (東京大学・史料編纂所・教授)
研究者数・期間 17人 (平成19年度～平成23年度)

日本独自の目録学を構築し、「知のネットワーク」で結ばれた公家社会の文庫群 (= データベース) の復原や伝統的知識体系を解明することにより日本古典学の研究基盤を再生する

伝統的知識体系の基礎をなす古典学は洋の東西を問わず、全ての人文科学の基礎である。世界的な古典学復興の兆しが見える中で、日本古典学の閉塞感は否めない。それは従来のテキストの信頼性が揺らぐと共に古写本等新出史料が殆ど期待できないという状況があり、更に中国目録学のような基礎学問領域が欠如していることに起因する。しかし、近世の新写本の中に未紹介の史料や善本が存在しており、写本群(蔵書群・文庫群)という視点からの個別史料の見直し、当時の知識体系によって分類されていた蔵書目録の検討により、新しい研究の可能性が見られる。

日本の古代・中世以来の伝統的な知識体系は、天皇家(皇室)を中心とした「知のネットワーク」によって結ばれた公家社会の様々な文庫(禁裏[天皇家]や伏見宮家などの宮家、公家、社寺の各文庫)に集積・分類・保持されてきたことに特徴があり、それらは前近代社会において全体として一つの有機的なデータベースとして機能していた。本研究課題では、日本古典学の研究基盤再生のための新しい学問領域として、日本独自の「目録学」を構築し、天皇家・主要公家文庫のデジタル画像を蔵書群毎に集積し、蔵書目録等を利用してその旧蔵形態を共時的に復原するとともに、伝統的な知識体系の構造や具体相を解明することを目的とする。

具体的には、天皇家・主要公家文庫収蔵史料のデジタル画像 100 万コマ以上の作成・集積、天皇家ゆかりの 2 大蔵書群で世界的な文化遺産・写本群でもある東山御文庫本・伏見宮家本等の 1 画像毎の「HTML 版デジタル画像内容目録」の作成、『日本古代人名辞典』1～7(吉川弘文館)の増補・改訂、データベース化など誰もが利用できる日本古典研究の研究補助ツールの充実、主要公家文庫の蔵書目録、文庫史、収蔵個別古典籍・古文書の研究の進展とその成果の研究者・図書館関係者・市民への提供・普及・還元である。

Establishing Library Catalogue Studies and Reviving Japanese Classical Studies - Restoration of the Royal and Noble Library Holdings and Investigation of Traditional Intellectual Systems

Principal Investigator Name : TAJIMA Isao

The University of Tokyo, Historiographical Institute, Professor

Number of Researchers: 17 Term of Project: 2007 - 2011

Abstract of Research Project

From ancient and medieval times onward, traditional intellectual systems in Japan were *tennô*-house-centered “knowledge networks”: libraries of palaces, noble houses, temples, and shrines that semi-independently acquired, collated, and preserved materials. Taken as a whole, a knowledge network might be regarded as having functioned as premodern society’s version of an organic database. The purpose of this research is to inaugurate, as a new scholarly field, Japanese Library Catalogue Studies, a mode of analysis that gathers together digitized materials based upon the groupings of the Imperial Library Collection and major holdings of the noble houses and uses these catalogues to make synchronic restorations of the original library forms.

Such an enterprise will serve elucidate the structure and specifics of traditional intellectual systems, and also serve to revitalize the basis of research in Japanese classics.